

インチキ文学ボクメツ雑談

坂口安吾

青空文庫

本日（一九四六年七月七日・日曜）朝食の折から一通の速達が舞いこんできた。差出人は白鷗社・雑談会・立野智子女史とあり、曰く、インチキ文学撲滅論（枚数十五枚）を書くべし云々^{うんぬん}とある。直ちに（と申しては失礼だが）御辞退の御返事を差上げようと思つたのだが、さて、どういうわけだか、突然笑いがこみあげて、これが却々^{なかなか}とまらない。ようやく笑いをボクメツして食事にとりかかると、又、こみあげてくる。閉口した。

日本国の始まりはアマテラス大神^{おおみかみ}で、下つて卑弥呼^{ひみこ}という女の王様が九州で幅をきかせていた由^{よし}であり、当今デモクラシーの新日本となつて忽ち^{たちま}三十何人だかの婦人代議士が現れ、男の子はダメである。立野智子女史にはお目にかかったこともなく、どうい御方か知らないが、これも相当の人物に相違ない。日本の文化界はだらしがなく、未だ^{いま}に旧態依然として男の子が編輯^{へんしゅう}の席の大半を占めているから、全然ダメである。活気に乏しく、勇壮活潑^{ゆうそうかつぱつ}の氣風なく、遠慮深くジメジメとして、改新断行突貫撲滅の大精神に欠けている。近頃は僕のところなどへも雑誌社の人、新聞社の人、色々と訪問にあずかるけれども、みんな男の子だからダメなので、せいぜい「大いに力作をお願い致します」などとはにかんで言うぐらい、日本革新の氣風など微塵^{みじん}といえどもないのである。だから

今朝はからずもインチキ文学撲滅の大命を拝して、僕がすくなからず慌てたのも、僕自身男の子だから旧態依然として身を以て世の新風を解しておらなかつたせいであろうと思う。それにしても立野女史ともある御方がどう間違えて僕如きに向つてインチキ文学撲滅の命令を発したのだから、すでに政界には三十何人かの代議士あり、文学界といえども、何々タイ子女史とか何々直子女史とか腕力衆にすぐれ突進又突貫殺人センメツ水もたまらぬ方々があるではないか。

不幸にして三日ほど前、僕は東京新聞のもとめに応じて文芸時評をやつた。僕は元來筆不性以上でぶしよつに読み不性で、日々の雑誌など読むためしがないので、文芸時評はやらないことになつていたが、東京新聞のヨリタカ君は彼が帝大生で碁ごの主将をしていた時代、ふと知りあい彼は僕に碁の教授をしてくれた。即ち先生で、男の子はダラシがないもので、外ならぬ先生のたのみであるから三度に一度は仕方がなく、ムニヤムニヤ引受ける。翌日からヨリタカ先生に入れ代つて寺田君が連日十冊ぐらいつつ雑誌をとどけて来て之これも読めあれも読めという。因果であつた。僕も心中決するところあり、たまには日本中の雑誌をみんな読んでやれ、驚くな、という魂胆になり、みんな読んで、あげくの果が、永井荷風先生、宇野浩二先生、瀧井孝作先生方を始め悪口あつこうぞうごん雑言、無礼妄言ぶれいもうげんの数々、性來の才

ツチヨコチヨイで仕方がない。この文章が立野女史のお目にとまったのであろう。

不幸にして僕にはインチキ文学ボクメツの勇壯遠大な雄図はないので、まして「ボクメツ」の自信はない。のみならず、困ったことには僕自身がインチキ文学の作者であつて、真正正銘の文学に縁の遠い筋素生すすじようの悪さを自覚している次第である。

荷風先生浩二先生孝作先生等々をヤツツケたとて「ボクメツ」しているわけではないので、いわば自戒の一法であり、先生方をボクメツするよりも自らのインチキ性を憎み呪のろひ常にボクメツを念じているため、はからずも思いがこもつて、人をボクメツするかのようなアラレもない結末となる。なんじよう諸先生方をボクメツし得んや。因果はめぐり、自らをボクメツするのみ、僕のインチキ・ボクメツはただ自戒自戦自闘です。とても何々女史のように一刀両断、バツタバツタと右に左に藁人形わらにんぎようを斬り倒すきように行かない。僕はただ自分を斬っているだけ、自分のインチキ文学を憎み呪い、悪戦苦闘、あげくの果の狂態、僕はダメです、男の子だから。そして僕はともかく作家だから。僕は自分を知っています。自分のことが全部です。

女史達はサツソウト、勇ましく、前進、ああ、スバラシイなア！ インチキ文学ボクメツと仰おっしゃ有る。そう考えていらつしやる。ボクメツの自信も手腕もおおりに相違ない。男

が兵隊になつて、戦争をするなんて、とんでもない間違いだ。学問だつてそうで、プレシユウズというサツソウたる学者団は女史達で、ハムレットは男の子にきまつている。

世の中は出直さねばならぬ。根本から。男はボクメツされねばならぬ。女史達とその偉大なる正義によつて。新日本万歳！

(七月七日、正午)

青空文庫情報

底本：「墮落論・日本文化私観 他二十二篇」岩波文庫、岩波書店

2008（平成20）年9月17日第1刷発行

2013（平成25）年4月5日第6刷発行

※底本のテキストは、著者直筆原稿によります。

入力：Mana ohbe

校正：酒井裕二

2016年3月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

インチキ文学ボクメツ雑談

坂口安吾

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>